

令和5年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

学校教育目標に基づいて、以下の5つの重点項目の改善に取り組んだ。

「ア 学習活動 教科指導」に関して「予習・復習・課題への取り組み」および「テストの見直しの習慣」について「しっかり行っている」と回答した生徒の割合は、前者が76%（12月調査結果）、後者が71%となり、それぞれが目標を達成した。例年は7月調査から12月調査にかけて低下する傾向が見られたが、今年度はわずかではあるが上昇し、教科担当者による個別指導やテスト後の面接指導を丁寧に行ったことが奏功したと思われる。また「教師の授業力の向上」に関しては、今年度から生徒へのアンケート調査「授業への満足度」（分かりやすさ、ポイントの明確性、進度の速さ等の8項目の平均）の割合75%を目標としたが90%という回答であった。今後、さらに授業改善を目指し、互見授業をより日常的に行えるようにするなど工夫をしていきたい。

「イ 学校生活（生活・保健指導）」に関して、社会的なルール・マナーの実践度は目標を下回ったが、昨年度と大差ない状況であった。また保健指導においては、教育相談の充実、心身の不調を訴える生徒への対応方法の確立を目標とした。不調を訴えがちな生徒について共通理解をわかり、早期からSCや巡回指導員を交えた包括的な支援を行うよう努めている。しかし精神的な悩みを抱える生徒は増加する傾向にあり、今後も粘り強く見守っていくことが重要である。

「ウ 進路支援 進路指導」については、一人あたりの面接指導回数、年間に6回以上（3年生は10回以上）の目標を達成した。丁寧な個別指導や教員からの声かけは、本校の進路指導、生活指導の根幹であり、今後も重視したい。また、できるだけ早期に進路目標を明確にすることも指導の目標としており、今年度は3年1学期までに志望学部学科を決めた生徒は85%であった。低学年のうちから進路意識を高める具体的な仕掛けをしながら、時代の変化とともに多様化する入試制度に対応するために柔軟性のある進路指導を目指していきたい。

「エ 特別活動」に関しては、主体的に行事に参加、協力した生徒の割合は目標値を大きく上回り96%という結果であった。行動制限が緩和され、学校行事が従来どおりの形態で実施できたことが要因であろう。また部活動に関して、全学年で満足度の平均は90%近い結果が得られた。

「オ 保護者・地域・同窓会との連携」に関して、保護者のPTA関連の行事への参加率は80%近くになり、ほぼ目標を達成した。また生徒の地域交流については、課題研究の調査や発表会を通して地域や市役所と交流して学ぶ機会や、子ども食堂等のボランティア活動が増加している。

学校評議員からは、教育環境の保全、教育の機会の保持に努めていることへの高い評価、並びに今後とも高い目標を持って生徒を育てていただきたいとの激励の言葉をいただいた。

2 次年度に向けての課題と方策

- ・学習行動の定着に向けて、これまでとは異なった新たな働きかけの工夫を要する。
- ・普段から互見授業を行うなど、一層、授業改善に取り組みやすい職場環境を作る。
- ・社会的なルール、マナーを守り、実践する意識が下降気味であり、生徒によるルール作りなど自主性を重視した取り組みがさらに必要である。
- ・低学年において学習習慣や進路意識を身につけさせるための指導を一層、充実させる。
- ・部活動について、地域や中学校の動向を踏まえ、本校の実情と合わせて実施形態を検討する。
- ・地域における課題研究、交流に一層取り組むとともに、地域の小中学校とも連携していく。

3 学校アクションプラン

令和5年度 砺波高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	ア 学習活動 教科指導
重点課題	授業を中心とした学力の養成と自己学習の充実
現 状	<p>○授業に対する満足度の割に具体的な学習行動に必ずしもつながっていない点があり、引き続き学習意欲を高める仕掛けづくりや声かけを粘り強く行いながら、生徒が学習の意義・目標を核心に据え、学習習慣や態度の変化につながる試みを工夫していく必要がある。</p> <p>○授業力向上のため、互見授業を行って日々の授業改善に取り組むとともに、先進校視察や授業方法の研修会等に積極的に参加して、新しい指導法を吸収し授業に反映させている。</p> <p>○ICT機器を活用したり、より主体的な学びの場を創出したりして、生徒の思考力・創造力を伸ばす効果的な方法を研究する必要がある。</p>
達成目標	<p>①家庭学習習慣のアンケート調査</p> <p>a) 「予習復習や課題にしっかり取り組んでいる」と答える生徒</p> <p>b) 「テストを見直し、学習改善に活かそうとしている」と答える生徒</p>
	<p>②教師の授業力向上</p> <p>a) 「授業に満足している」と答える生徒</p> <p>b) 授業でICT機器を効果的に活用する。または、協働力、発信力を高めるための学び合い活動を行う。</p>
方 策	<p>a) 12月調査で75%以上</p> <p>b) 12月調査で70%以上</p> <p>a) 達成率75%以上</p> <p>b) 達成率100%</p>
方 策	<p>○協働力を高める取り組みを学習に取り入れ、予習復習に主体的に取り組む習慣を定着させる。思考力や発信力および創造力を高める生徒の集団づくりを進める。</p> <p>○学習実態調査、面接を継続し、生徒の生活実態や学習意識の変化を把握する。また指導と評価を一体化する中で、生徒に学習状況をきちんと確認させながら、学習方法や態度の改善、または発展的な取り組みにつなげるアドバイスを与えていく。</p> <p>○課題発見力と問題解決力を養う探究活動を通じて思考力や表現力、判断力を育成する。</p> <p>○教科部会、互見授業、授業研修会などを通じて指導力を高めるよう努力する。</p>
達成度	<p>(a) 76%</p> <p>(b) 71%</p> <p>(a) 90%</p> <p>(b) ICT 96% 学び合い 85%</p>
具体的な取組状況	<p>① (a)教科担当者は常に生徒の学習状況の把握に努め、個別指導やノート回収、面接やアドバイス等を行っている。(b)習熟度やテーマ、考え方別に協働的な学習活動を取り入れ、生徒がより主体的に取り組むような仕掛けづくりを行っている。また、単元の学習を終了ごとに評価を行い、次の単元の学習指導に生かすとともに、生徒の実態に応じた学びの定着、進化、発展につなげる(指導と評価の一体化)。</p> <p>② 自身の専門教科科目にとらわれず、1、2学期に互見授業期間を設けている。</p>
評 価	<p>① A</p> <p>② B</p>
学校関係者の意見	<p>○学習行動の定着につながる試みについて、今後も検討を続けていくことを望む。</p> <p>○ICTに依存しすぎず、人との関わりを大切にすることも重要。</p> <p>○探究活動はもっといろいろな場所で行い、多くの方々に知ってもらおう広報の工夫が必要。</p>
次年度に向けての課題	<p>① 昨年と比べて結果は良くなったものの、まだしっかりと足どりとは言い難い。特に1、2年生で学習行動の定着に至らない結果が見られる点があり、これまでの取り組みを粘り強く進めながら、新たな試みも取り入れつつ、生徒の学習意欲や学習意識の喚起に努めていく必要がある。</p> <p>② 1学期の互見授業期間中に多くの先生方が互いの授業に参加し合ったが、2学期にはあまり時間がなかったようだ。特に期間を決めず気軽に授業に参加し、意見を交換しあうなども必要。また教科の枠を越えた共同の授業の取り組みも今後検討したい。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)

令和5年度 砺波高校アクションプラン - 2 -

重点項目	イ 学校生活	
重点課題	学校生活における基本的な生活習慣の涵養と心身の健康保持	
現 状	<p>① 規律ある生活として「挨拶の励行」「服装、頭髪の整備」「時間厳守」「公共でのマナー遵守」「携帯電話の適切な使用」を挙げているが、「社会的なルール・マナーを守る気持ちを持つ（意思表示）」即ち、ルール・マナーを守り実践すると回答した生徒は90.7%（令和4年度）である。</p> <p>②各学年には、自己肯定感が低く日常的に心身の不調を訴える生徒が見られる。すぐに解決することが難しい悩みが原因の場合も多く、長期的な支援が必要な場合もある。生徒の心身の状態の変化を早期に把握し、各学年との連携を図りながら、教職員全体で適切な対応と支援をする必要がある。</p>	
達成目標	①社会的なルール・マナーを守り実践する	②教育相談活動の充実と心身の不調を訴える生徒への対応方法の確立
	95%以上	カウンセリング等 年30回以上 生徒及び教職員対象の講演会等 年2回以上 メンタルヘルスに関わる情報提供 年3回以上
方 策	<p>○「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施して理解度を高める。また、実践する生徒を増やす方策として、生徒が作り宣言したルールを守る形として生徒の自主性に任せる。</p> <p>○学年部会や学年連絡会を通して、心身の不調を訴える生徒についての共通理解を図り、早期からスクールカウンセラーや巡回指導員等の専門家を交えた包括的支援を行う。</p> <p>○保健講話や保健だより・掲示板による情報発信により、生徒が自らメンタルヘルスについて学ぶ機会を設けることで、自己理解を深め、周囲の人との良好な関係を築くための一助とする。</p>	
達成度	88.4%(90.7) 1年：92.4%(86.4) 2年：83.7%(91.6) 3年：89.2%(90.7)	カウンセリング等 年35回 生徒及び教職員対象の講演会等 年4回 メンタルヘルスに関わる情報提供 年5回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会的なルール・マナー」のアンケートから見える砺波高校生の現状報告 ・生徒会による着こなしについてのアンケート及び執行部からの提言 ・アンケートの設問にヘルメットを追加 ・自転車鍵かけ運動 ・自転車運転の交通安全教室 ・新入生対象の着こなしセミナーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング等 SC 30回 巡回指導員 5回 ・講演会等 1, 2年保健委員、希望者対象 7/6 第2学年生徒対象 10/11 教職員対象 8/28, 12/1 ・情報提供 保健だより「HEALTH」5, 8, 10, 3月号 カウンセリング案内1月
評 価	B	A
学校関係者の意見	<p>○達成度の数字が下降しているという事で評価はBかもしれないが、砺波高校の生徒達はよくやっていると思われるので評価Aでも妥当。</p> <p>○ICT活用が進んでいるが、直接人と関わり、対話することが最も大事。人とのつながりや関係性の構築が重要視されていく。対人関係等、メンタル面でのサポートの必要性は今後高くなる。</p>	
次年度に向けての課題	<p>「社会的なルール・マナー」のアンケートの結果から検討すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車を運転するときにヘルメットを着用しないが81.2%と普及していない ・社会的なルール・マナーを守り実践するが88.4%と下降傾向 	<p>・今年度の取組を継続して教育相談活動をさらに充実させると共に、生徒が心身の不調に対して気軽にカウンセリング相談を活用することができるような相談体制づくりを推進する必要がある。また、必要に応じて速やかに外部の支援機関と連携を図ることができるよう、協力体制を整えていきたい。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

重点項目	ウ 進路支援 進路指導	
重点課題	進路目標の実現に向けて、進路意識の高揚と目標設定の早期化	
現 状	○進路意識が希薄で、自分の能力や適性を把握できないため、目標設定が遅れる生徒がいる。 ○進路目標はあるが、意識の深まりや学習意欲につながらず、学力が不十分な生徒がいる。	
達成目標	① 年間を通して生徒1人あたりの面接指導の実施回数	② 3年1学期までに進路目標を明確にした生徒の割合
	1・2年生：6回以上 3年生：10回以上	80%以上
方 策	○生徒が進路意識を深め、自己を見つめる面接の指導を工夫する。 ○総合的な探究の時間などを通して進路研究を行い、進路意識を高める。 ○社会人や大学生による講話を充実させる。またオープンキャンパスへの参加を積極的に勧めることなどにより進路目標の早期設定につなげる。	
達成度	面接回数 1・2年生：8回程度 3年生：10回以上	志望学部学科を決めた時期 ・2年3学期まで 79%(昨年66%) ・3年1学期まで 85%(昨年84%)
具体的な取組状況	・3年生…模試実施後や志望校選択に向け時期を問わず10回以上実施。 ・2年生…進級直後、各学期始め、科目選択時や試験後などに実施。 ・1年生…入学直後、各学期始め、文理選択の時期や試験後などに実施。	・1・2年生は、総合的な探究の時間、進路講話、職業人や大学生との懇談などの取り組みを通して、大学や職業の意識付けを図った。 ・3年生は、模試などを通して志望校を検討し将来の自己実現に向けた指導を行った。 ・共通テスト後は、各々の実情に合わせ出願・受験指導を行った。
評 価	A	A
学校関係者の意見	○数年前と比較すると（特にコロナ禍以降）生徒との面談の内容は、学習や進路の事ばかりではなく、友人や家族との関係など多岐にわたり、面談の回数や時間も増加傾向にある。高校入学後、早期から進路意識を高める指導や行事計画を立ててはいるが、近年進学先のミスマッチからか、浪人以外の再受験希望者が増えており、在学中の指導にさらなる工夫・改善が必要だろう。	
次年度に向けての課題	○低学年のうちから進路意識を高めることが、その後の学習に対する姿勢や生活習慣など充実した高校生活に繋がる。そのための仕組み（個別面談・進路研究・志望理由書作成、見学や体験など各種校外活動ほか）づくりが大切であり、時代の変化とともにその内容や実施時期も常に検討を加える必要がある。 ○近年の多様な入試制度に柔軟に対応できる体制の確立も課題である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)

令和5年度 砺波高校アクションプラン - 4 -

重点項目	エ 特別活動 特別活動・図書委員会活動の活発化	
重点課題	生徒の主体的な活動の充実・図書館利用の推進	
現 状	<p>○学校行事では生徒会が中心となって運営し、クラスや部活動単位で協力し合っ まじめに取り組む生徒が多い。本校生徒としての自覚や連帯感は高いが、やや消 極的で主体性に欠ける生徒も見られる。</p> <p>○ほとんどの生徒が部活動に所属して主体的に活動に取り組んでいるが、学習との 両立に悩み、達成感を得られていない生徒もいる。また部員数の減少により充実 した活動を維持することが難しい部がある。</p> <p>○主体的な読書ができていない生徒は少ない。読書をしたいたいと思いつつも時間を確 保できないという生徒や読書は苦手と読まないという生徒もいるが、時間と場所 が与えられると読むことはできる。</p>	
達成目標	①学校行事において主体的に参加、協力 した生徒の割合 ②部活動の充実度や結果に対する満足度	③生徒年間読書冊数 *毎月の生徒アンケートで把握 参考として図書館貸出冊数
	全学年75%以上	4～2月の全校読書冊数総数2,500冊以上 *貸出冊数1,200冊以上
方 策	<p>○行事ごとにアンケートを実施してTGPの身に付けたい力を生徒に意識させ、主体 的、協力的な参加意識を高める。</p> <p>○限られた時間の中で主体的かつ効率的な部活動運営を工夫する。アンケート結果 により生徒の満足度や取組状況等を把握して、今後の運営や指導に役立てる。</p> <p>○課題研究、小論文、授業に必要な本や生徒が必要な本をそろえ、展示を工夫して 生徒が自主的に読書活動を行える環境を整える。</p> <p>○教養講座や読書会の運営、アンケート調査などの活動をとおして図書委員が各ク ラスの読書の推進役となり、生徒の読書意欲を喚起する。</p>	
達成度	<p>①学校行事において主体的に参加、 協力した生徒の割合 96.0% 応援歌練習会 98.7% 体育大会96.0% 砺高祭 97.6%</p> <p>②部活動に対する満足度 88.6% (1年:94.3% 2年:79.3% 3年:92.2%)</p>	<p>③・生徒年間読書冊数 1173冊 生徒アンケートによる(対象1・2年) 今年は1月時点での4～12月間の調査 ・図書館貸出冊数 733冊</p>
具体的な 取組状況	<p>4月 応援歌練習会事後アンケート実施 6月 体育大会事後アンケート実施 7月 3年生部活動アンケート実施 9月 砺高祭事後アンケート実施 1月 生徒会執行部による部活動アン ケート実施</p>	<p>毎月「読書への誘い」作成 7月 教養講座 9月 砺高祭「砺高図書館からの脱出」 7・12月 読書会 1月 ビブリオバトル(1・2年)</p>
評 価	A	B
学校関係 者の意見	<p>○魅力ある新しい行事や社会に出たときに役立つような運営等の検討。また、部活動 に求める意識の変化に対応できるよう継続検討としてほしい。</p> <p>○高校の図書館だけでなく公立図書館との情報交換・イベント開催などを検討 してほしい。</p>	
次年度に 向けての 課 題	<p>○新型コロナウイルス感染症が「2類」から「5類」へ移行、行動制限が緩和され行 事がコロナ前と同様の形態でほぼ実施できた。今後は、生徒が成長できる、他校に はない形態で魅力ある行事を考えていくことも必要である。いずれにせよ生徒が主 体的、協力的に企画運営や参加ができるような体制を整える。</p> <p>○部活動については、地域、中学校の動向を踏まえ、学校の実情と合わせて、部活動 の存続や実施形態等継続的に検討する。</p> <p>○今年度はアンケート調査の時期や対象生徒数が前年と異なったため、前年との対比 分析は難しかった。現状として読書冊数の減少は止まっていない。今後は図書館の 利用の推進を掲げ、教科とのさらなる連携や、課題研究・小論文指導等のサポート 体制の充実、館内施設の充実を図り、「行きたくなる図書館」を目指す。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:達成できなかった)

令和5年度 砺波高校アクションプラン - 5 -

重点項目	オ その他 保護者、地域、同窓会との連携	
重点課題	保護者や地域、同窓会との連携・協力の推進および広報活動の充実	
現 状	<p>○保護者の学校行事やP T A行事への参加率が高い。</p> <p>○授業や生徒会活動、部活動等、多様な活動を通して、地域の方との交流や学習する機会を設けている。</p>	
達成目標	①保護者がP T A総会やP T A研修会に参加する割合 (保護者会を除く)	②授業や特別活動で地域の方々と交流した生徒の延べ数が全校生徒に占める割合
	80%以上	50%以上
方 策	<p>○P T A行事や学校行事は早めに知らせ、できるだけ保護者が参加しやすいよう配慮する。</p> <p>○社会状況を考慮しながら、授業や特別活動で生徒が地域調査に出かけたり施設訪問をしたり、地域の方々に来校していただく機会を意図的に設ける。</p> <p>○学校ホームページや同窓会ホームページを適時更新し、本校の教育活動の広報に努める。</p>	
達成度	<p>5月 1, 2, 3学年懇談会 80.4%</p> <p>7月 3学年研修会 85.9%</p> <p>10月 1, 2学年研修会 78.5%</p>	87.3%
具体的な取組状況	<p>P T A総会ならびに研修会には多くの保護者に参加していただき、概ね目標を達成することができた。体育大会や合唱コンクール、砺高祭においても、4年ぶりに通常開催となり保護者や地域の多くの方々に来場していただいた。授業では、課題研究で地域の方にインタビュー調査をしたり、体験学習の機会を設けたりして地域の方から学ぶ機会が増加した。また、地域でのボランティア活動の機会が増加した。</p>	
評 価	A	A
学校関係者の意見	<p>○他の学校と協働したり、いろいろな場所で活動したりして、広報活動ももっと行えばよい。</p> <p>○子ども食堂や剪定ボランティアなど、地域と高校がつながっていると感じられる。</p> <p>○企業訪問先として図書館も活用したらよい。以前は静かに本を読む場所だったが、今は「地域に開かれた場所」で人を集めるためのイベントを行っている。情報交換しながら「行きたい図書館」を互いに目指していきたい。</p>	
次年度に向けての課題	<p>○次年度も引き続き、P T A行事に多くの保護者に参加していただけるように、P T A懇談会や研修会を土曜日の午後を実施する予定である。</p> <p>○授業や特別活動で、地域の方と交流する機会を積極的に設ける。</p> <p>○砺波高校や礪波同窓会のホームページをこまめに更新し、多くの方に見ていただけるよう努める。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：達成できなかった)